

◆位置図◆



◆現状と課題◆

- 勝浦漁港は、カツオ一本釣漁業の主要水揚港として外来船が多く入港し、県下第2位の水揚金額を誇っており、周辺の漁港では、沿岸漁業によりキンメダイや曳縄カツオ、イセエビ、アワビなども多く水揚げされている。
また、最近ではマグロ類やカジキ類の水揚げが増加し、新たな産地として注目されている。
- 地域内の水揚量は約2万トン、水揚金額は約91億円あるが、8市場に水揚げが分散していることから、市場の統合に向けて周辺漁港から勝浦漁港に水揚物を集約して市場取引を活性化するとともに、流通機能の効率化・合理化を図っているところである。
- 拠点となる勝浦漁港については、荷さばき所等の陸上施設の老朽化や能力不足が顕在化していることから、**食の安全・安心に対応した高度な品質衛生管理型施設に再整備するとともに、大型化している外来船の受入が可能となるよう、泊地・岸壁等の漁港整備を行う必要がある。**

◆計画方針◆

勝浦漁港を流通拠点漁港として漁港関連施設を整備することにより、漁業を中心とする地域振興を図る。

施策の目標

- ・流通機能の効率化・合理化
- ・価格形成機能の強化

◆計画内容◆

- ・事業期間：H22～H30
- ・事業主体：勝浦市 千葉県勝浦漁業協同組合 新勝浦市漁業協同組合
- ・事業内容：冷凍冷蔵施設 製氷施設 第一・第二市場（衛生管理型） 泊地浚渫（改良） 岸壁（改良）

